

リーディングの Can-do statements の妥当性の検証 : 自己評価と実際のパフォーマンスとの関係について

根岸 雅史 (東京外国語大学大学院)

森本 勝則 (ARCLE)

発表者: 吉池 陽子 (東京外国語大学 大学院前期課程) yoshiike.yoko.dee@tufs.ac.jp

1. 調査の目的

自己申告型の can-do statements の妥当性を検証する。

自己申告である Can-do statements を疑問する声も少なくない。

リーディングの技能のうち、「新聞を読む」という技能に着目して検証する

理由: 新聞という教材が学校教育内でも注目、CEFR 等でも can-do statement のひとつに取り上げられていること。また、新聞と一言でいっても様々な記事が存在することから、can-do statements をより細分化してその妥当性を検証が必要であると考えたからである。

2. Research Questions

自己評価は、実際のパフォーマンスをどの程度反映しているのか?

Can-do アンケートの結果と実際のパフォーマンスの関連をみる

「新聞」には色々な記事がある 分類

資料1

実際のパフォーマンスを測定するためのタスクの設定

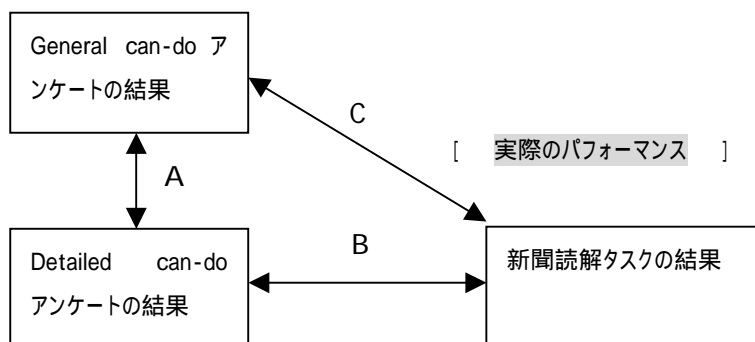
資料1

の分類に即した Can-do アンケートの細分化 (General, Detailed) 資料2

資料1 新聞読解タスク、資料2 Can-do アンケート

分析のイメージ図

[自己評価 (Can-do statements)]



A: 学習者はどのような新聞記事をイメージして、「英字新聞が読める」としているのか

B: 実際の新聞読解パフォーマンスを予測可能な can-do アンケートはどれか。

C: 「新聞がよめる」という Can-do アンケートを答える際に、具体的にどの新聞記事をイメージして答えているか。

今回は、A、B の分析結果について報告をする。

3. 調査

調査内容 学習者の新聞読解のパフォーマンスをはかるためのタスク(新聞読解タスク)と、Can-do アンケート結果である自己申告型の Can-do statements との関連をみる。

対象 日本の高校生2年生:234名 3年生:233名 合計467名

4. データ分析

Research Question A : 学習者はどのような新聞記事をイメージして、「新聞を読む」としているのか

		Detailed can-do アンケートの結果: カテゴリ分類した記事毎	
		できるだろう	できないだろう
General can-do アンケートの結果	できるだろう		
	できないだろう		

・ 部分の比率が高いものが、「新聞が読める」と思った人が実際に読めて、「読めない」と思った人が読めない記事である。つまり、「新聞が読める」と聞いたときに具体的に思い浮かべる類の記事と考えられる。

Research Question B : 実際の新聞読解のパフォーマンスを予想可能な can-do アンケートはどれか

		新聞読解タスク :Section1	
		できた	できなかった
Detailed can-do アンケートの結果: Section1	できるだろう		
	できないだろう		

・ Section1 ~ 6 までの detailed can-do アンケートと新聞読解タスクの組み合わせで分析を実施する
 ・ 部分の比率が高いものが、「新聞が読める」と思った人が実際に読めて、「読めない」と思った人が読めない記事である。よって、部分の比率が高ければ実際の新聞読解パフォーマンスを予測可能な can-do アンケート項目であると考えられる。

5. 分析結果・考察

Can-do statements の種類 : 経験に基づく自己評価、 予測に基づく自己評価

今回の調査では実際に新聞を読んだ経験のない生徒が約80%。そのため、今回の調査では経験に基づくものではなく「予測に基づいた自己評価」に特化して分析を行う。

Research Question A: 学習者はどのような新聞記事をイメージして、「英字新聞が読める」としているのか

General can-do アンケートと、detailed can-do アンケートそれぞれの結果の関連

資料3

結果: どのような記事をイメージして「読める」「読めない」を予測しているかを特定できなかった。

- a. 80%以上の生徒が英字新聞を読んだことがない。また、英字新聞を読んだことのない生徒の75%以上が、読んでもほとんど理解できないと思っている
- b. 英字新聞を読んでも理解できないと思っている生徒でも、次の記事は理解できるだろうと思っている人の割合が多い。
 - 英字新聞で紹介されているもの・事柄で自分の興味あるもの(アンケート Q7)
 - 英字新聞で紹介されているもの・事柄で説明が簡単で写真や絵がついているもの(アンケート Q8)
 - 英字新聞の記事で、日本語のニュースなどである程度内容を知っているもの(アンケート Q9)

Research Question B: 実際の新聞読解パフォーマンスを予測可能な can-do アンケートはどれか。

新聞読解タスクと、detailed can-do アンケートそれぞれの結果の関連

資料4

結果: 「読める」と思った人の正解率が高く、「読めない」と思った人の不正解率が高い Can-do アンケート(つまり、新聞読解のパフォーマンスを予測できるもの)の特定はできなかった。ただし、「読める」と思った人の半数以上が正解しているタスクがあることも分かった。[資料4:結果(1)]

その他:

a. 新聞をカテゴリー別にみること、カテゴリー毎の Can-do statement の妥当性を検証できたのか。

[資料4:結果(2)]: 「広告」の概要・詳細把握は、「読める」「読めない」と予想した人とも、同程度の割合の人が正解。

新聞読解経験無しの人が予測で回答。カテゴリー分類内でも各自がイメージする難易度の幅は広いと考えられる。

b. 背景知識の有無が理解度に影響するか。

[資料4:結果(3)]読解タスク(Section6-)で80%が不正解。事前知識の有無が読解を助けるか判断不可能。

タスクの難易度を考慮要。

まとめ

今回の調査では、A: 学習者はどのような新聞記事をイメージして「英字新聞が読める」としているのか、B: 実際の新聞読解パフォーマンスを予測可能な can-do アンケートはどれかを特定できるような結果を得ることはできなかった。しかし、Can-do statements を作成するにあたっては経験でなく「予測」に基づくものは、各自のイメージするものに幅があるため実際のパフォーマンスを予想することが難しい(妥当性が低い)ことが分かった。

6. 今後の研究

今回の結果を踏まえて、今後の研究では以下の点を考慮する必要がある。

経験に基づく Can-do アンケートの結果を利用する

今回の分析: 学習者の「予想」に基づいた Can-do アンケート結果 学習者の「予想」の幅が大。よって、Can-do アンケートでは学習者の経験に基づくものを問うべき。

読解タスクの改善

今回新聞記事をカテゴリー毎に分類したものの、それぞれの記事の難易度を考慮していなかった。その結果、Section6 で扱った記事が難しすぎてしまいほとんどの高校生が読むことができなかった。つまり、読解パフォーマンスをより正確に見るためには、カテゴリー毎に難易度の異なるタスクを設定する必要がある。

学習者のレベルを考慮

学習者のレベルにより「できた」「できない」という実際のパフォーマンスと、Can-do アンケートの結果との関連は異なると考えられる。今後の研究では、学習者のレベル別により詳細に検証していく必要がある。

参考: G-TEC for Students におけるグレードを考慮にいたした分析

資料1 新聞読解タスク

[1] 新聞記事の分類

新聞記事の分類を[2]の ~ ようにカテゴリー分類し、それぞれに該当する新聞記事を選出。カテゴリー分類には、CEFRのcan-do statementでの情報や意見の読み方、DIALANG self-assessment statementでの新聞の読み方に関して述べられているものを参考にした。

[2] 新聞記事の選定とタスクの設定

下記 ~ に該当する新聞記事を選定し、Section1～6を設定。各記事の理解度を測るタスクを用意する。タスクは出来るだけ自然な読みに近いものを設定した。

情報提示記事

- a. 文が少ないもの Section1 テレビ欄 : 指定した番組を探す。
Section2 広告 : 広告の意図、使用期限などを読み取る。
- b. 文が多いもの Section3 イベント案内 : 特定のイベントを探す。

意見記事 Section4 意見(街角インタビュー): 何の意見か概要を把握する/読んだ意見をまとめる。

紹介記事 Section5 新製品紹介: 自分が興味を持った製品について説明する。

通常記事

- a. 背景知識があるもの Section6 通常の記事- : 見出しの内容を説明。記事の内容を説明。
- b. 背景知識のないもの Section6 通常の記事- : 見出しの内容を説明。記事の内容を説明。

[3] 新聞読解タスクの例(一部抜粋)

資料2 Can-do アンケート

今回の研究では、「新聞が読める」という大きなアンケートと併せて、新聞読解タスクの1.[2]で細分化したカテゴリと対応する詳細の Can-do アンケートを実施した。本研究では Can-do アンケートを以下の二つに分類。

General Can-do アンケート : 漠然と“新聞が読めるか”という言葉を使用した can-do アンケート

Detailed Can-do アンケート : 本研究で分類した新聞のカテゴリにあわせた、Can-do アンケート

[Can-do アンケート](一部抜粋)

General Can-do アンケート : 漠然と“新聞が読めるか”という言葉を使用した can-do アンケート

Q1. あなたは、英字新聞を自分から進んで読んだことがありますか？

- | | |
|----------------|---------|
| 1 経験したことがない | Q 2 へ |
| 2 少し経験したことがある | } Q 3 へ |
| 3 何度も経験したことがある | |
| 4 頻繁に経験している | |

(「2、3、4 ある」の人はQ 2を、「1 ない」の人はQ 3を答えてください)

Q2. Q 1で「2、3、4」と答えた人のみ

あなたは英字新聞を読んだとき、よく理解できましたか？

- 1 読んでみて、理解できないところが多かった。
- 2 読んでみて、大筋は理解できた。
- 3 読んでみて、細かい部分までだいたい理解できた。
- 4 読んでみて、細かい部分までほとんど理解できた。

Detailed Can-do アンケート : 本研究で分類した新聞のカテゴリにあわせた、Can-do アンケート

Q4. 英字新聞のTV欄や広告をみて、知りたい情報を探することができる。

- 1 やったことがあり、だいたいできた。
- 2 やったことがあり、ほとんどできなかった。
- 3 やったことはないが、やってみればできると思う。
- 4 やったことはない。また、やってみても多分できないと思う。

Q9. 英字新聞の記事で、日本語のニュースなどを通してある程度内容を知っていた事柄を、読んで理解することができる。

- 1 やったことがあり、だいたいできた。
- 2 やったことがあり、ほとんどできなかった。
- 3 やったことはないが、やってみればできると思う。
- 4 やったことはない。また、やってみても多分できないと思う。

資料3 Research Question A : 分析結果 (一部抜粋)

学習者はどのような新聞記事をイメージして、「英字新聞が読める」としているのか。

資料4 Research Question B : 分析結果 (一部抜粋)

実際の新聞読解パフォーマンスを予測可能な can-do アンケートはどれか。

参考